

# 読書文化が根付く 和歌山県をめざして

## 社会教育委員会議から ～子どもたちの発達段階に応じた読書活動を～

- 乳児期.....身近な大人が子どもと本との出会いを創り、一緒に本で遊ぶ。
- 幼児から小学校低学年.....周りの大人の読み聞かせ等を通して、集団で読書を楽しむ。
- 小学校高学年から高校生.....家族や仲間と本の話話を共有する中で、子どもが自分で本に手を伸ばしていく。



※社会教育委員会とは、社会教育法に基づき設置され、教育委員会に対して助言を行う機関です。



読書は、語彙を増やし、表現力を高め、感性や想像力を豊かにします。知識や教養を高め、視野や世界をどんどん広げます。

リラックス効果があるとも言われ、ストレスを軽減し、私たちの暮らしの質を高めてくれます。

読書のある生活は、私たちに豊かな人生をもたらしてくれることでしょう。

県では、今期の和歌山県社会教育委員会議において、「読書文化の醸成に向けて～生涯にわたり読書に親しむために～」というテーマで審議を行いました。そして、この実現には、子供たちが読書文化を構築するために、私たち大人が担う役割が重要であると考えました。家庭教育・学校教育・社会教育が手を携えて、大人と子供の読書活動を支える場と機会を創っていきましょう。

また、こうした議論を踏まえ、県民の読書文化をより一層醸成するために、様々な「読書を楽しむ習慣づくり事業」を引き続き展開していきます。

## 家族みんなで読書に親しむことを呼びかける キャッチフレーズを募集しました【入賞作品決定】

いろいろな世代に向けて読書の良さや楽しさを伝えるとともに、読書について考える機会とするため、「家族みんなで読書に親しむことを呼びかけるキャッチフレーズ」を募集しました。県内各地から1,424点の応募があり、その中から最優秀賞4点、優秀賞4点、佳作14点を決定しました。最優秀賞、優秀賞の作品は次の通りです。



- 【最優秀賞】(乳幼児期部門) 絵本大好き! お膝で隣でお布団で♡(林まゆみさん)
- (学童期部門) ぼくのむね ページとはずむ家読時間(一ノ瀬拓大さん)
- (青年期部門) 画面に触れるその指を、ページをめくるこの指に。(真珠杏莉さん)
- (成人部門) 推し本活、はじめませんか?(木村明子さん)

- 【優秀賞】(乳幼児期部門) 好きな本 選んで楽しく 読み聞かせ(中川祐一さん)
- (学童期部門) ねえ、ねえ!一緒に本の世界にとびこも!(小田さくらさん)
- (青年期部門) 行間を読めたら、大人に近づいた。(水谷真弓さん)
- (成人部門) 本で時間が溶けていく(榎本菜那さん)



表彰式

## 「読書を楽しむ習慣づくり事業」の取組

### ひろがるつながる 本のボランティア講座 【地域人材養成講座】



地域における読書活動の担い手の充実を図り、ボランティアによる読書活動の推進に繋げるため、自治体や団体等の求めに応じて、子供の読書活動推進に尽力いただける方を対象に、読み聞かせや図書整理などをメニューとした地域人材養成講座を開催しています。



田辺市で行われた講座

### 本って面白い! 読書のススメ講座 【高校生向け講座】



高校生を対象に、読み聞かせやビブリオバトル(好きな本を一定の時間内で紹介しあうゲーム)などをメニューとした講座を開催しています。読書の魅力に気づいてもらうとともに、将来自分の子供や身の回りの人にも読書の良さや面白さ、大切さを伝えてもらうための啓発を目的としています。



高校生が読み聞かせに挑戦中

### リサイクル図書用 書架の寄贈



身近で本を手に入る機会を増やすために、地域の方に本を提供する活動を行う施設や団体に対して、近隣の高等学校や特別支援学校の生徒が製作した書架を寄贈しています。

#### 〈書架贈呈式〉



かつらぎ町四邑公民館  
(製作:県立きのかわ支援学校の生徒)



認定NPO法人健康とコミュニティを支援するなるこみ  
(製作:県立和歌山工業高等学校の生徒)

### 読書推進フォーラム 【令和4年2月26日(土)県民文化会館、他】



新美南吉の「ごんぎつね」を朗読する山根世氏

子供から大人まで年齢に関係なく、読書の楽しさや素晴らしさを実感するとともに、地域全体で読書について考えていけるよう、読書推進フォーラムを開催しています。

令和3年度は、「見て、聴いて、読んで、本の世界に親しもう!～人生を豊かにする読書との出会い～」をテーマに、アナウンサーの山根世氏による朗読と講演、道化師・紙芝居実演家の塚原成幸氏によるアトラクションの他、「読書文化が根付く和歌山をめざして」をテーマにシンポジウムを行いました。

#### ～参加者の声～

●人が個として自立するために感謝の心を持ち、それを表現することの大切さを学んだ。そのためには、読書が重要な役割を果たすのだと実感した。

●幅広い世代の人との関わりや数多くの本の触れ合いが「言葉の力」を育てていくことを学びました。この学びを生かして、子供たちの言語化する力を育てていきたいと強く思いました。

●言葉の力は、生きる力の重要な要素であり、その育成を図るために読書の果たす役割は大きく、読書文化を醸成するために、家庭・学校・地域が協働して取り組むことが大切だと思いました。

●子供の言葉を育てるには、やはり、学校教育、家庭教育、社会教育が連携しつつ、それぞれの役割を果たすことが大切であることを改めて感じました。まずは、自分に何ができるか考えることから始めます。